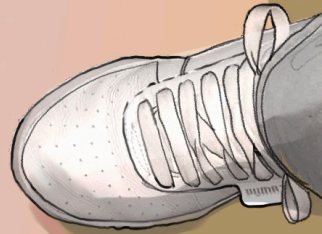
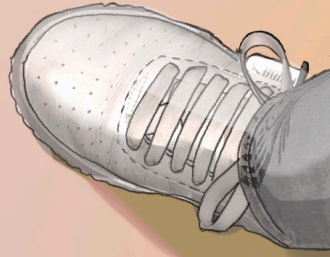


そ  
つ  
ち  
の  
人

アリス、ヘレナ、ロイ  
Level 3  
May 2020





## 2011 夏

夏紀は、夕方の東京の道を歩いていた。  
彼女は、東京大学の一年生だった。子供の時からいい子と呼ばれていた彼女は、実は大きな秘密が一つあった。それは、男の人でなく、女の人が好きだということだった。日本の社会では、アメリカと違って、同性愛は大変なことだと思われていた。だから、子供の時から、夏紀は自分が変だと思って、他の人と話すことができなかった。でも、時間が経つにつれて、彼女は英語がどんどん上手になって、インターネットで調べてみたら、同性愛は、実に悪いことじゃないと気がついた。大学に入ってから、友達から新宿二丁目、夏紀は自分のコミュニティを見つけるために、その街に出かけた。

## 2015 秋

八月の終わり、蝉の声が小さくなった。  
東京の夕方は、青い空の中で、火が燃えるみみたいな雲があった。遥は冷たい空気を吸い込んで、初めて東京のにぎやかな街を歩いた。小さい町で生まれた彼女は、19年間ずっと東京に行ってみたかった。遥は東京の新宿で、色々なLGBTQコミュニティがあると聞いていた。いつもBL (Boy's Love) の小説や漫画を読むことが好きだった遥は、今回新宿二丁目を歩いて、「本物の同性愛者に会えるかなあ」と、とても楽しみだ。小説と漫画の中で、男の同性愛者はみんな美しい顔をしている。現実はどうだろうか。遥は、まだわからなかった。

## 2019 春

「好きって何？」と思って、徹は悲しい顔をして、あてもなく歩いた。もう十六歳なのに、この質問に答えられない。さっき、改札の前まで友人を送ってあげたばかりだ。実は、ずっと前から、彼はこの友人に特別な感情を持っていた。「それは好きという気持ちだろう。」でも、友人は彼と同じ、男の子だ。  
歩いているうちに、外は暗くなった。

なつき

夏紀：

私わたしが初はじめに気きがづいたのは、この「Dragon Men」が書かいてあるバーだ  
った。その他ほかの標ひょう識しきは何なにもなかつた。友とも達だちによると、このバーは二丁にちよう  
目めの有ゆう名めいなゲイバーの一つだそうだった。私わたしは「字じが青あおいから、夜よるは  
ちよつと見みにくいかなあ」と思おもった。バーの前まえと中なかにはたくさん外がい国こく人じん  
がいるから、日に本ほん人じんだけじゃなくて、外がい国こく人じんの中なかにも人にん気きがあるという  
わけだ。

はるか

遙：

目めの前まえのバーは、「東とう京きやう 龍りゆう男お酒さ場ば」という有ゆう名めいなゲイバーだ。橙オレンジ色いろ  
のドうアえの上うへに「Dragon Men」と大おきくかて書かかれていた。「龍りゆう男お」の文もじ  
が書かかれていらる燈とう籠ろうもあつた。（「龍りゆう男お」というのは、龍りゆうの男おとこという  
意い味みだ。）私わたしは興こう奮ふんで緊きん張ちやうしていた。「どうししやう...入はいってみよう  
か。」と考かんえたが、ここは未み成せい年ねんが入はいってはいけないようになってい  
た。私わたしは窓まどからバーの中なかをのぞいてみて、びっくりしちゃった。同どう性せい  
愛あい者しゃの男おとこ達たちは漫まん画がのキャラクターとは全ぜん然ぜん違ちがつた。みんな美び形けいじゃな  
くて、ただの普ふ通つうのひとびと

とおる

徹：

前まえの店みせは、虹にじのいろちやうちんの提ち燈ちゆうちんがひつといていた。その提ちゆう燈ちんのひつとには「東とう京きやう  
龍りゆう男お酒さ場ば」と書かいてあつた。あつ、これは有ゆう名めいなゲイバーじゃないか。  
ゲイバーをみたのは初はじめてだ！面おも白しろい。でも、未み成せい年ねんで入はいれなくて残ざん念ねん  
だつた。その代かわりに、写しゃ真しんをさんと

なつき  
夏紀：

道<sup>ある</sup>をまっすぐ歩くと、「Bar Gold Finger」という文字が大きく書いてあ<sup>した</sup>って、下には「Women Only」と書<sup>か</sup>いてあ<sup>か</sup>った。「これはレズビアンバーに違<sup>ちが</sup>いない！」私<sup>わたし</sup>は胸<sup>むね</sup>が踊<sup>おど</sup>って、小<sup>こ</sup>声<sup>こえ</sup>で話<sup>はな</sup>してしま<sup>な</sup>った。「このバーはこんでいるようだから、中<sup>なか</sup>に私<sup>わたし</sup>みたい人<sup>ひと</sup>がたくさんいるはずだ」と思<sup>おも</sup>って、私<sup>わたし</sup>は初<sup>はじ</sup>めて、自分<sup>じぶん</sup>が一人<sup>ひとり</sup>じゃないという気<sup>き</sup>持<sup>も</sup>ちを感<sup>かん</sup>じた。でも、バーの標<sup>ひょうしき</sup>識<sup>えいご</sup>は英<sup>えい</sup>語<sup>ご</sup>しかなかったから、外<sup>がいこくじん</sup>国人<sup>む</sup>向<sup>む</sup>けの所<sup>ところ</sup>だ<sup>た</sup>ったかもし<sup>はい</sup>れない。入<sup>はい</sup>って見<sup>み</sup>たか<sup>は</sup>ったけど、ま<sup>は</sup>だ二<sup>に</sup>十<sup>じゅう</sup>歳<sup>さい</sup>じ<sup>は</sup>な<sup>ち</sup>な<sup>ち</sup>か<sup>ち</sup>ったので入<sup>はい</sup>れな<sup>な</sup>か<sup>か</sup>った。残<sup>ざんねん</sup>念<sup>ねん</sup>だ<sup>た</sup>ったけど、将<sup>しょうらい</sup>来<sup>らい</sup>、き<sup>き</sup>つ<sup>つ</sup>と<sup>と</sup>もど<sup>ど</sup>つ<sup>つ</sup>て<sup>て</sup>く<sup>く</sup>る<sup>る</sup>つ<sup>つ</sup>も<sup>も</sup>り<sup>り</sup>だ。

はるか  
遥：

私<sup>わたし</sup>は早<sup>そう</sup>そう<sup>そう</sup>に東<sup>とう</sup>京<sup>きょう</sup> 龍<sup>りゅう</sup>男<sup>なん</sup>酒<sup>しゅう</sup>場<sup>ば</sup>を去<sup>き</sup>って、この街<sup>まち</sup>の奥<sup>おく</sup>に行<sup>い</sup>くと、左<sup>ひだり</sup>手<sup>て</sup>にき<sup>き</sup>れ<sup>れ</sup>い<sup>い</sup>な<sup>な</sup>店<sup>てん</sup>が<sup>が</sup>見<sup>み</sup>え<sup>え</sup>た。ピ<sup>ぴ</sup>ン<sup>ん</sup>ク<sup>く</sup>の<sup>の</sup>燈<sup>とう</sup>籠<sup>ろう</sup>が<sup>が</sup>あ<sup>あ</sup>っ<sup>つ</sup>て、同<sup>どう</sup>じ<sup>じ</sup>色<sup>いろ</sup>の<sup>の</sup>桜<sup>さくら</sup>も<sup>も</sup>ド<sup>ど</sup>ア<sup>あ</sup>の<sup>の</sup>近<sup>ちか</sup>く<sup>く</sup>に立<sup>た</sup>っ<sup>つ</sup>て<sup>て</sup>い<sup>い</sup>た。「これ<sup>これ</sup>も<sup>も</sup>ゲ<sup>ゲ</sup>イ<sup>イ</sup>バ<sup>バ</sup>ー<sup>ー</sup>？<sup>？</sup>き<sup>き</sup>れ<sup>れ</sup>い<sup>い</sup>す<sup>す</sup>ぎ<sup>ぎ</sup>る<sup>る</sup>じ<sup>じ</sup>ゃ<sup>ゃ</sup>な<sup>な</sup>い<sup>い</sup>…」と<sup>おも</sup>っ<sup>つ</sup>た。「Vacancy for Women」とい<sup>い</sup>う大<sup>おお</sup>き<sup>き</sup>な<sup>な</sup>標<sup>ひょうしき</sup>識<sup>しき</sup>が<sup>が</sup>少<sup>すこ</sup>し<sup>し</sup>だ<sup>だ</sup>け<sup>け</sup>見<sup>み</sup>え<sup>え</sup>た、そ<sup>そ</sup>し<sup>し</sup>て「Women Only」とい<sup>い</sup>う標<sup>ひょうしき</sup>識<sup>しき</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>っ<sup>つ</sup>た。こ<sup>こ</sup>こ<sup>こ</sup>は女<sup>じょ</sup>性<sup>せい</sup>同<sup>どう</sup>性<sup>せい</sup>愛<sup>あい</sup>者<sup>しゃ</sup>の<sup>の</sup>バ<sup>バ</sup>ー<sup>ー</sup>な<sup>な</sup>ん<sup>ん</sup>だ<sup>だ</sup>！私<sup>わたし</sup>はあ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>女<sup>じょ</sup>性<sup>せい</sup>同<sup>どう</sup>性<sup>せい</sup>愛<sup>あい</sup>者<sup>しゃ</sup>を<sup>を</sup>意<sup>い</sup>識<sup>しき</sup>し<sup>し</sup>た<sup>た</sup>こ<sup>こ</sup>が<sup>が</sup>な<sup>な</sup>か<sup>か</sup>っ<sup>つ</sup>た。LGBTQ コ<sup>こ</sup>ミ<sup>ミ</sup>ュ<sup>ユ</sup>ニ<sup>ニ</sup>テ<sup>テ</sup>ィ<sup>ィ</sup>ー<sup>ー</sup>に<sup>に</sup>は、ゲ<sup>ゲ</sup>イ<sup>イ</sup>ば<sup>ば</sup>か<sup>か</sup>り<sup>り</sup>い<sup>い</sup>る<sup>る</sup>とい<sup>い</sup>う<sup>う</sup>わ<sup>わ</sup>け<sup>け</sup>じ<sup>じ</sup>ゃ<sup>ゃ</sup>な<sup>な</sup>く、も<sup>も</sup>う<sup>う</sup>一<sup>せい</sup>つ<sup>つ</sup>の<sup>の</sup>性<sup>せい</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>ん<sup>ん</sup>だ<sup>だ</sup>な<sup>な</sup>あ<sup>あ</sup>…

とおる  
彻：

前<sup>まえ</sup>に<sup>に</sup>は、き<sup>き</sup>つ<sup>つ</sup>さ<sup>さ</sup>て<sup>て</sup>ん<sup>ん</sup>の<sup>の</sup>喫<sup>ちが</sup>茶<sup>さ</sup>店<sup>てん</sup>が<sup>が</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>そ<sup>そ</sup>う<sup>う</sup>だ。あ<sup>あ</sup>っ<sup>つ</sup>、違<sup>ちが</sup>う。喫<sup>ちが</sup>茶<sup>さ</sup>店<sup>てん</sup>じ<sup>じ</sup>ゃ<sup>ゃ</sup>な<sup>な</sup>く<sup>く</sup>て<sup>て</sup>何<sup>なん</sup>だ<sup>だ</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>か。店<sup>みせ</sup>の<sup>の</sup>壁<sup>かべ</sup>に<sup>に</sup>は、「Some people are Lesbians」と<sup>と</sup>か、「Girl meet girl」と<sup>と</sup>か、「The future is female」な<sup>な</sup>ど<sup>ど</sup>の<sup>の</sup>文<sup>ぶん</sup>が<sup>が</sup>英<sup>えい</sup>語<sup>ご</sup>で<sup>で</sup>書<sup>か</sup>い<sup>い</sup>て<sup>て</sup>あ<sup>あ</sup>っ<sup>つ</sup>た。ま<sup>ま</sup>じ<sup>じ</sup>？<sup>？</sup>こ<sup>こ</sup>れ<sup>れ</sup>も<sup>も</sup>ゲ<sup>ゲ</sup>イ<sup>イ</sup>バ<sup>バ</sup>ー<sup>ー</sup>だ<sup>だ</sup>ら<sup>ら</sup>う。男<sup>おとこ</sup>の<sup>の</sup>人<sup>ひと</sup>は<sup>は</sup>入<sup>はい</sup>っ<sup>つ</sup>て<sup>て</sup>は<sup>は</sup>い<sup>い</sup>け<sup>け</sup>な<sup>な</sup>い<sup>い</sup>はず<sup>ず</sup>で、こ<sup>こ</sup>れ<sup>れ</sup>は<sup>は</sup>女<sup>じょ</sup>性<sup>せい</sup>同<sup>どう</sup>性<sup>せい</sup>愛<sup>あい</sup>者<sup>しゃ</sup>が<sup>が</sup>集<sup>あつ</sup>ま<sup>ま</sup>っ<sup>つ</sup>て<sup>て</sup>知<sup>し</sup>り<sup>り</sup>合<sup>あ</sup>う<sup>う</sup>こ<sup>こ</sup>が<sup>が</sup>で<sup>で</sup>き<sup>き</sup>る<sup>る</sup>場<sup>ば</sup>所<sup>しょ</sup>だ。そ<sup>そ</sup>れ<sup>れ</sup>に、「Be yourself」や「Equality--always」な<sup>な</sup>ど<sup>ど</sup>の<sup>の</sup>励<sup>はげ</sup>ま<sup>ま</sup>し<sup>し</sup>の<sup>の</sup>メ<sup>メ</sup>ッ<sup>ッ</sup>セ<sup>セ</sup>ー<sup>ー</sup>ジ<sup>ジ</sup>も<sup>も</sup>書<sup>か</sup>い<sup>い</sup>て<sup>て</sup>い<sup>い</sup>た。外<sup>がいこくじん</sup>国<sup>わ</sup>人<sup>わ</sup>が<sup>が</sup>分<sup>ぶん</sup>か<sup>か</sup>る<sup>る</sup>よ<sup>よ</sup>う<sup>う</sup>に<sup>に</sup>全<sup>ぜん</sup>部<sup>ぶ</sup>英<sup>えい</sup>語<sup>ご</sup>で<sup>で</sup>書<sup>か</sup>い<sup>い</sup>て<sup>て</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>ん<sup>ん</sup>だ。な<sup>な</sup>る<sup>る</sup>ほ<sup>ほ</sup>ど、同<sup>どう</sup>性<sup>せい</sup>愛<sup>あい</sup>は<sup>は</sup>国<sup>こく</sup>際<sup>さい</sup>的<sup>てき</sup>な<sup>な</sup>話<sup>わ</sup>題<sup>だい</sup>だ<sup>だ</sup>！い<sup>い</sup>い<sup>い</sup>な<sup>な</sup>あ、僕<sup>ぼく</sup>の<sup>の</sup>心<sup>こころ</sup>は<sup>は</sup>暖<sup>あた</sup>か<sup>か</sup>く<sup>く</sup>な<sup>な</sup>る<sup>る</sup>よ<sup>よ</sup>う<sup>う</sup>な<sup>な</sup>気<sup>き</sup>が<sup>が</sup>し<sup>し</sup>た。

なつき  
夏紀：

つぎ しんごう おお ひょうしき あかいろ  
次の信号に、大きな HIV について 標 識があった。赤色で「Living  
Together」と書いてあって、下に日本語で街のみんなは HIV があっても  
なくてもいっしょに生活できるようにと願っているメッセージを表し  
ていた。その他にも、可愛いゲイらしい男性達がいっしょに楽しんでい  
る漫画が描いてあった。楽しそうだなあ。こんな 教育のために作られ  
た広告は、大切だと思った。

はるか  
遙：

みぎ い おお ひょうしき み ていきき けんさう  
右に行くと、大きな 標 識が見えた。「定期的に HIV 検査を受けましょ  
う」という文字と二人の男の人が抱き合っている絵が描かれていた。  
BL が好きな私は、「その二人は絶対に 兄弟ではなく、恋人だ」と思っ  
た。その絵のスタイルは BL 漫画のスタイルじゃなくて、教科書みたい  
だ。私は、同性愛者はいつも HIV 患者になると思われていることを知っ  
ている。でも本当なのだろうか？

とおる  
彻：

じょせい みぎ い かべ おお は  
女性のバーを右へまっすぐ行って、デパートの壁に大きなサインが貼っ  
てあった。白色で「HIV≠AIDS」書いてあった。このサインの大きさと  
かんが 考えると、マイノリティじゃなくてみんなと関係あるというイメージ  
も伝えていた。男の人の写真も絵もあって、普通の生活し続けるため  
にみんなは心配しないで HIV テストをしようとアピールしている。この  
まちほんとう おもしろ  
町は本当に面白いね。どうしてセクシュアル・マイノリティについて、  
ひょうしき おお  
標 識がそんなに多いのだろうか。

なつき  
夏紀：

また街を歩いていたら、突然、ピンクの雑誌店に着いた。店の壁には、  
かっこいい男の人の写真があった大きなゲイ向けの雑誌の広告があっ  
た。レズビアン向けの雑誌じゃなさそうで、ちょっと残念だった。こん  
な広告があれば、レズビアンコミュニティは人々にもっとよく知られる  
ようになるかもしれない。私のコミュニティはもっと認められて欲しい。

はるか  
遥：

歩き続けて、遠くてピンクの店を見た。「この色は女性向けか？」私  
はそう思って、近くに行った。

「うわー！」

大きな裸の男のポスターは、その店の壁に貼り付けてあった。突然、  
それを見て、私は本当にびっくりしてしまった。その大きな裸の男だ  
けじゃなく、他の色々な男性の同性愛のセックスライフについてポスタ  
ーもあった。私は恥ずかしくなって急いでそこから逃げた。  
でも、あのポスターにあるその男の肉体は、とても強かった…私がい  
つも読む漫画の中の、その細い男性達とは全然違った。

とおる  
徹：

そして、「ルミエール」を書いた店を見た。これも虹の色があって、た  
ぶん同性愛と関係ある店のはずだ。でも今は何もない、新しい店だろ  
う。どんな店か知りたくて入るのが、ちょっと楽しみだ。

なつき  
夏紀：

つか こんばん しんじゆく に ちよう め たんさく お  
ちよっと疲れたから、今晚の新宿二丁目の探索はここまで終わりにし  
た。いろ いろ なる こと を み つけ ら れ て よ か っ た。 しょうらい  
た。色々なLGBTコミュニティのこを見つけれられてよかった。将来、  
このエリアだけじゃなくて、日本全国にもっとLGBTバーが増えるとい  
いとおも。そして、ぜん せ かい わたし さ べつ か  
いと思う。そして、全世界で私のコミュニティが差別化されないよ  
うに願っている。

とき きいろ もじ か ひょうしき み  
その時、黄色の文字で「Gay コンボイ」と書いてある標識を見つけて、  
ふ たても の つ  
少し古い建物に着いた。

はるか  
遥：

わたし く とき とお みち きょう み けしき わたし  
ゆっくり、私は来る時に通った道をもどった。今日見た景色は、私に  
いろ いろ なる こと を おし えて くれ た。 げんじつ  
色々なことを教えてくれた。現実のLGBTQ コミュニティーはやっぱり漫  
画と違うなあ！  
が ちが

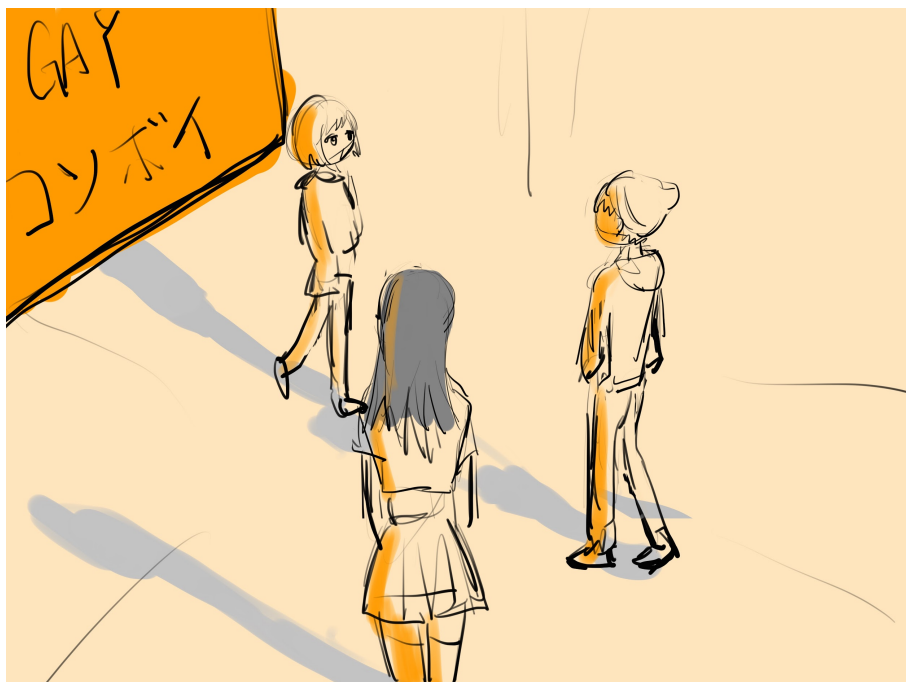
おも とき ひだり て きいろ ひょうしき み  
そう思った時、左手には黄色の標識が見えた。「Gay コンボイって…  
い い み  
どう言う意味？」

とおる  
徹：

よる こんばん けいけんほんとう じぶん やさ ぼく ひとだち  
もう夜になった。今晚の経験は本当に自分に優しかった。僕らしい人達  
はじ け がつ  
がたくさんいることに初めて気が付いたね。「愛は異性でも同性でもか  
あ い いせい どうせい  
まわらない！」と思って、ある小さい金色のサインに気が付いた。  
おも ちい きんいろ き つ



「それから、<sup>わたし</sup>私/<sup>ぼく</sup>僕が<sup>み</sup>見えた——」



この<sup>こんらん</sup>混乱した<sup>せかい</sup>世界で、<sup>さんにん</sup>三人が<sup>あ</sup>会えたのだった。

文: ロイ アリス ヘレナ

絵: アリス

出典 : Google Maps

6 ページ目:

image capture: Dec 2009 @2020 google

image capture: Jun 2013 @2020 google

image capture: May 2019 @2020 google

8 ページ目:

image capture: Apr 2015 @2020 google

image capture: Apr 2018 @2020 google

image capture: May 2019 @2020 google

10 ページ目:

image capture: Mar 2014 @2020 google

image capture: Mar 2015 @2020 google

image capture: May 2019 @2020 google

12 ページ目:

image capture: Jul 2013 @2020 google

image capture: Apr 2018 @2020 google

image capture: May 2019 @2020 google